

2 写真資料

- ① 本書には、写真1から写真130まで全部で130点の写真資料を掲載した。今回の調査では230点余りの写真資料を収集したが、未掲載分については、新たに発見される写真資料とともに、今後の研究で活用させていただきたいと思う。
- ② 写真資料の配列は、「第1部 論文編」の各章に関係するものをそれぞれまとめて掲載した。
- ③ 写真資料のキャプションは、原則として所蔵者先で整理された標題を採用しているが、必要に応じて改めたものもある。
- ④ 写真資料の年代は、写真資料の裏面にある記載や、参考文献などで照合できる年月日を採用した。また、不明なものについては、写真に写った若戸大橋や八幡製鉄など洞海湾の景観の差異により、おおよその年代を推定することが可能なため、敢えて推定年代を記入しなかった。
- ⑤ 写真資料の所蔵者・提供者名については、一点ごとには明示せず、巻末の「写真資料目録一覧」に一括して掲げた。一覧表との対比の便宜を図るため、掲載した写真資料ごとに「通番」を括弧で付した。
- ⑥ 写真資料によっては被写体の人物を特定できるものもあり、個人情報やプライバシーの観点から当然考慮しなければならない問題も伏在する。掲載にあたっては、掲載許可とともに、その点も含めすべての所蔵者・提供者から許諾を得ていることを断っておきたい。

「第1章 洞海湾の変遷と港湾輸送」に関する写真資料



写真1 江川を行く川舳 (通番156)

写真2 江川を行く川舳 (通番139)





写真3 江川〈昭和2（1927）年頃〉（通番44）

写真4 江川を行く川舳（昭和12（1937）年）
（通番157）



写真5 江川を行く川舩（通番140）



写真6 洞海港若松渡場附近（昭和初期）（通番3）



写真7 堀川を行く川舩（通番141）



写真8 吉田、堀川の切抜附近をゆく川舩 (通番 56)

写真9 川舩、吉田堀川の切抜附近 (通番 58)



写真10 川舩、唐戸水門附近 (通番 55)

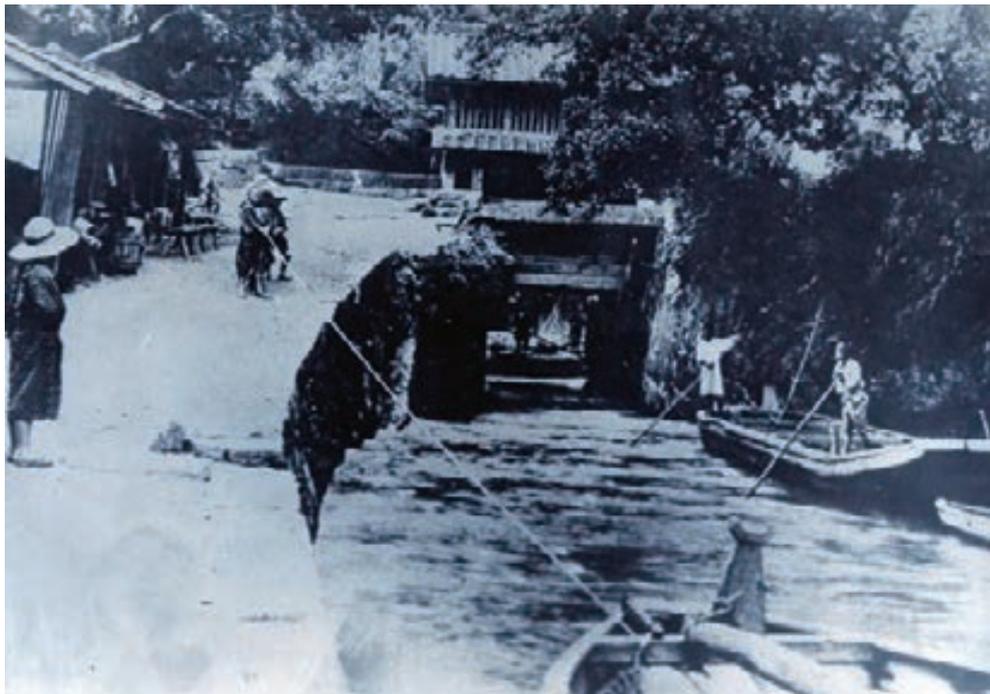


写真 11 堀川を網で引いて
さかのぼる川舩
〈明治 42 (1909)
年 6 月〉 (通番 57)

写真 12 遠賀川の川舩 〈明治末期〉 (通番 52)

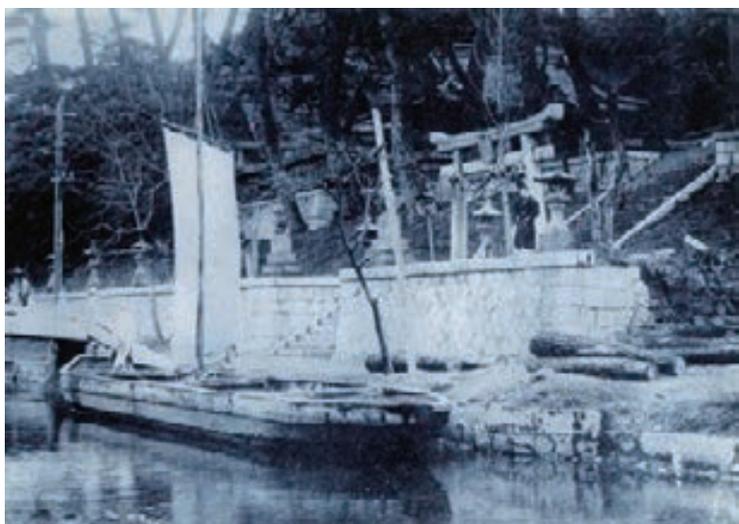


写真 13 帆を上げた川舩 (通番 53)



写真 14 川締、陣原附近〈明治終期～大正初期〉
(通番 59)

写真 15 若松駅操車場〈昭和 12
(1937) 年〉(通番 150)



写真 16 若松駅構内〈大正期〉(通番 117)



写真 17 若松駅操車場 (通番 118)

写真 18 石炭船と石炭車 (通番 74)



写真 19 藤ノ木栈橋 (昭和 12 (1937) 年)
(通番 155)



写真 20 機帆船群 (通番 66)



写真 21 藤ノ木栈橋 (昭和 12 (1937) 年) (通番 153)



写真 22 石炭と舢 (通番 78)



写真 23 石炭のある風景 (通番 79)



写真 24 貯炭 (通番 76)

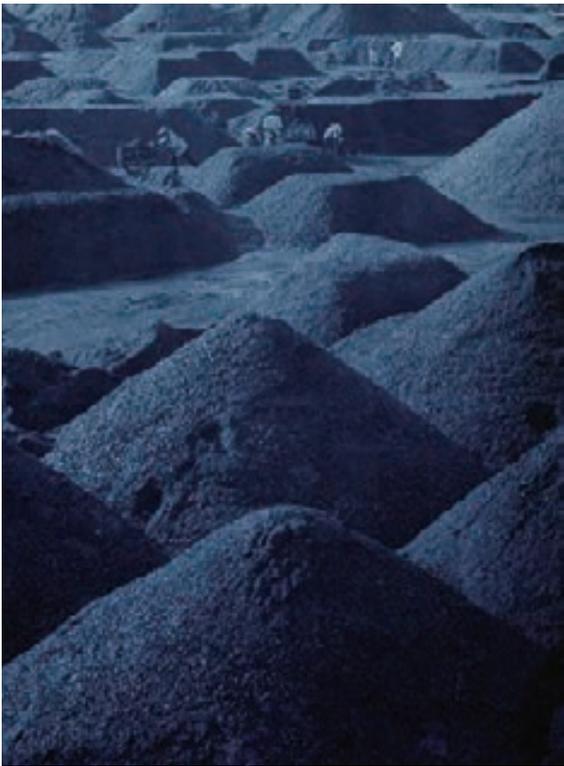


写真 25 貯炭場 (通番 75)

写真 26 浚渫船 (通番 109)



写真 27 海陸連絡工事 (一) (大正末期) (通番 112)



写真 28 海陸連絡工事（二）〈大正末期〉
（通番 113）



写真 29 洞海湾風景（通番 104）



写真 30 中の島より渡場を見る（通番 12）



写真 31 在港船で賑う洞海湾（通番 105）

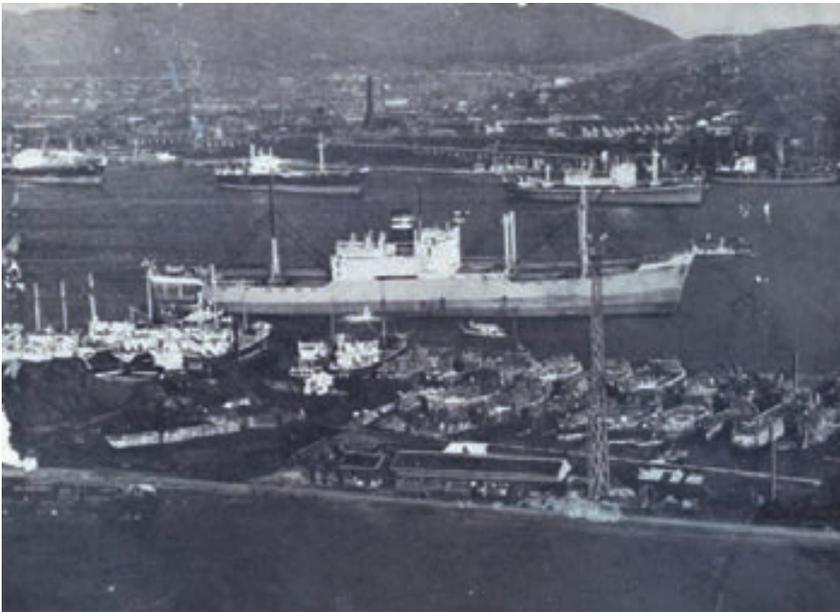


写真 32 若松港（通番 111）



写真 33 洞海港展望（通番 114）



写真 34 空から見た洞海港 (通番 110)

写真 35 若松埠頭 (昭和 12 (1937) 年)
(通番 106)



写真 36 若松埠頭 (通番 108)



写真 37 若松駅構内と洞海港〈大正 10
(1921) 年以前〉(通番 116)

写真 38 駅鈴 (通番 115)



写真 39 若松駅構内と機帆船群
(通番 214)



写真 40 高塔山より見たる
若戸市街（通番 19）

写真 41 若戸大橋と八幡の工場群（通番 137）



写真 42 若松より戸畑市街を望む（通番 13）



写真 43 若松市街より八幡製鉄所を望む
(通番 45)

写真 44 若松市街 (通番 40)

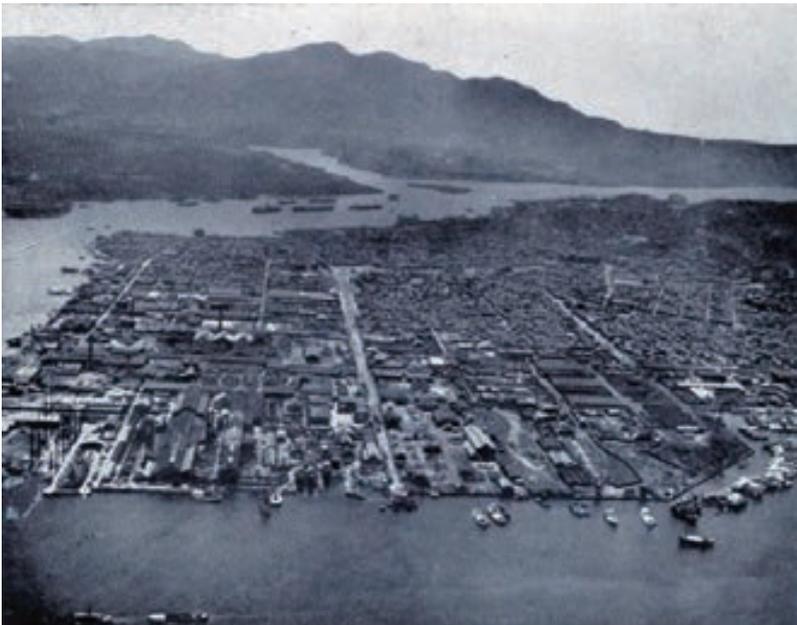


写真 45 北湊工業地帯 (通番 39)